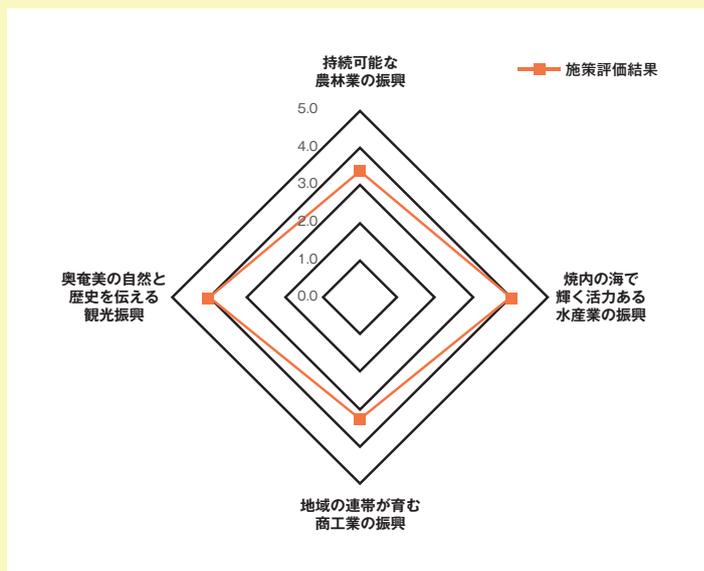


基本方針1 きらりと光る郷土に根ざした産業を育むむらづくり



「水産業の振興」と「観光の振興」では、平均点が4点となり概ね計画どおり取り組みが実施できた。しかし、「観光の振興」では、情報発信やガイド育成などの課題が残った。

「農林業の振興」では、新規の認定農業者の登録や、集落営農の法人化等にはつながらなかったことや、森林の多面的利用に取り組みなかったことが要因となり評価が下がった。

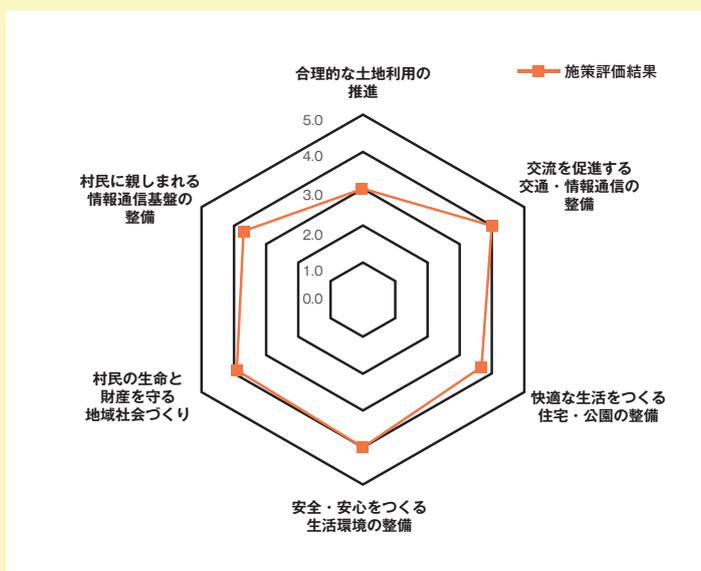
「商工業の振興」では、新規の企業誘致の実績がなくE評価となったことから評価が他の施策より低くなった。

施策評価結果 (A5点、B4点、C3点、D2点、E1点とし数値化)

施策	評価数	A	B	C	D	E	合計点	平均	備考
		5	4	3	2	1			
1 持続可能な農林業の振興	8	0	6	0	1	1	27	3.38	
2 焼内の海で輝く活力ある水産業の振興	3	0	3	0	0	0	12	4.00	
3 地域の連帯が育む商工業の振興	5	0	3	1	0	1	16	3.20	
4 奥奄美の自然と歴史を伝える観光振興	6	3	0	3	0	0	24	4.00	
合計	22	3	12	4	1	2	79	3.59	



基本方針2 快適な生活を支えるむらづくり

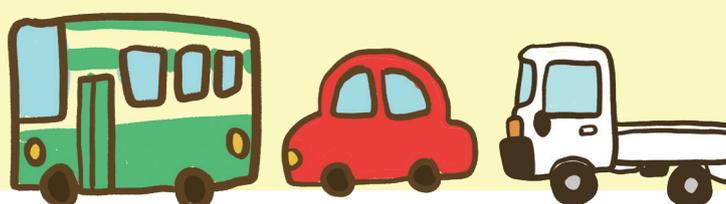


「交通・情報通信網の整備」と「生活環境の整備」では、平均点が4点となり概ね計画どおり取り組みが実施できた。

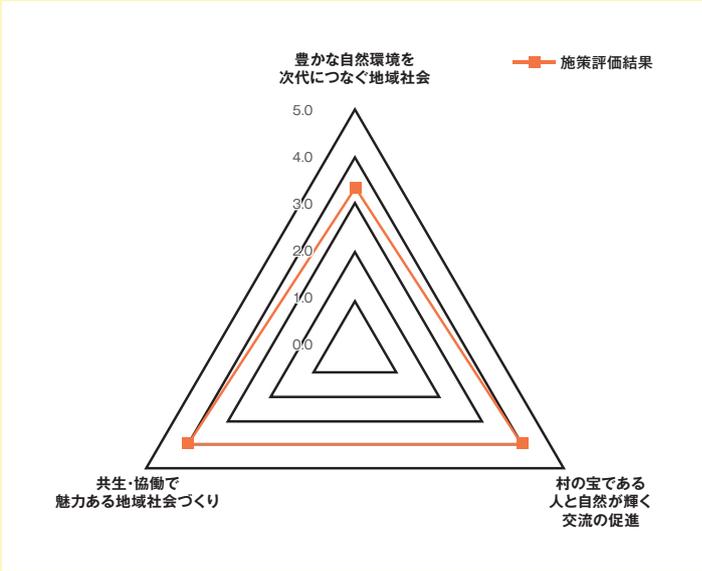
一方、「合理的な土地利用の推進」では、農振地域の見直しが未達成となるとともに遊休地及び耕作放棄地について課題が残ったことから評価が低くなった。

施策評価結果 (A5点、B4点、C3点、D2点、E1点とし数値化)

施策	評価数	A	B	C	D	E	合計点	平均	備考
		5	4	3	2	1			
1 合理的な土地利用の推進	4	0	1	2	1	0	12	3.00	
2 交流を促進する交通・情報通信の整備	5	0	5	0	0	0	20	4.00	
3 快適な生活をつくる住宅・公園の整備	4	0	3	1	0	0	15	3.75	
4 安全・安心をつくる生活環境の整備	5	0	5	0	0	0	20	4.00	
5 村民の生命と財産を守る地域社会づくり	7	0	6	1	0	0	27	3.86	
6 村民に親しまれる情報通信基盤の整備	3	0	2	1	0	0	11	3.67	
合計	28	0	22	5	1	0	105	3.75	



基本方針3 魅力あふれる「人と自然」が調和するむらづくり



「交流の促進」と「地域社会づくり」では、平均点が4点となり概ね計画どおり取り組みが実施できた。しかし、「地域社会づくり」では、住民参画や地域コミュニティ活動は積極的に行われA評価となったが、男女共同参画の社会づくりにおいて目標達成できていない部分が多くD評価となった。

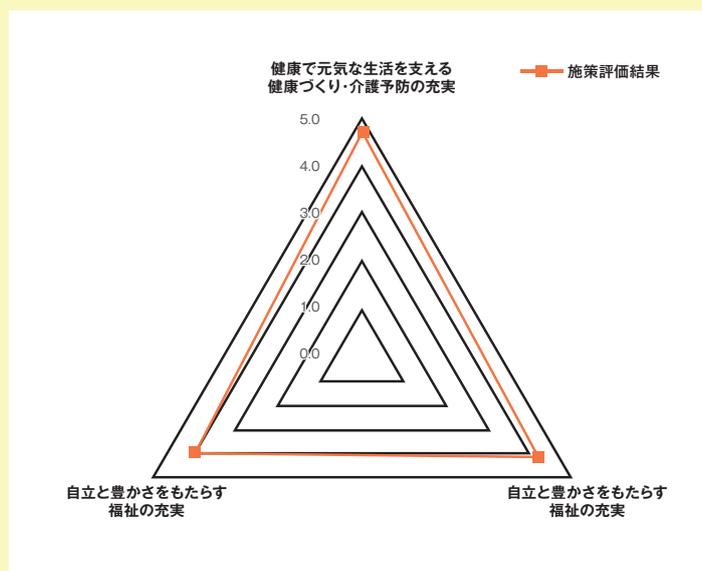
一方、「自然環境の保全」では、環境学習の効果がみえないなど住民の意識向上が進んだとは言い難いことから評価が低くなった。

施策評価結果 (A5点、B4点、C3点、D2点、E1点とし数値化)

施策	評価数	A	B	C	D	E	合計点	平均	備考
		5	4	3	2	1			
1 豊かな自然環境を次代につなぐ地域社会	3	0	1	2	0	0	10	3.33	
2 村の宝である人と自然が輝く交流の促進	2	0	2	0	0	0	8	4.00	
3 共生・協働で魅力ある地域社会づくり	3	2	0	0	1	0	12	4.00	
合計	8	2	3	2	1	0	30	3.75	



基本方針4 健やかでぬくもりのある支えあいのむらづくり



3施策ともに4点を超え、計画どおり効果的な取り組みが実施できた。

特に、「健康づくり・介護予防」では、健康づくりと母子保健の取り組みが積極的に推進されており目標以上の成果があったとするA評価となった。

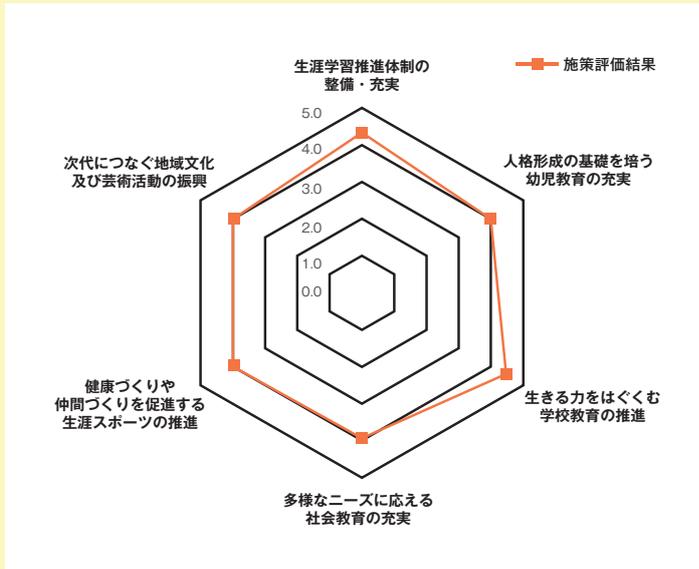
また、「福祉の充実」のうち高齢者福祉においては、いきいきどうくさ体操の自主継続化や高齢者元気度アップポイント事業などの実施により要介護認定率が低下するなど効果が伺えA評価となった。

施策評価結果（A5点、B4点、C3点、D2点、E1点とし数値化）

施策	評価数	A	B	C	D	E	合計点	平均	備考
		5	4	3	2	1			
1 健康で元気な生活を支える健康づくり・介護予防の充実	3	2	1	0	0	0	14	4.67	
2 自立と豊かさをもたらす福祉の充実	6	1	5	0	0	0	25	4.17	
3 自立と豊かさをもたらす福祉の充実	5	0	5	0	0	0	20	4.00	
合計	14	3	11	0	0	0	59	4.21	



基本方針5 ふるさとを愛し、未来へはばたく心豊かでたくましい人を育むむらづくり



6施策すべてが4点を超え、計画どおり効果的な取り組みが実施できた。

特に、「生涯学習」では、人権教育の実施により村民の関心を高めることができ、公民館講座では健康増進に寄与するなど効果がみられたことからA評価となった。

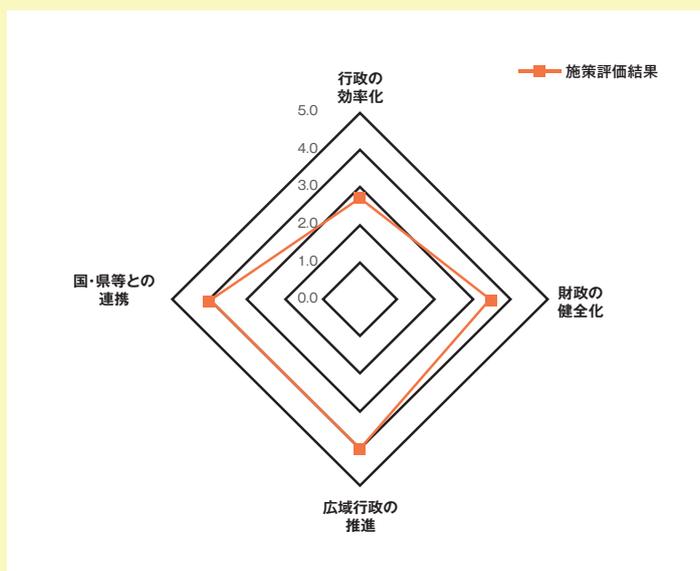
学校教育に関しても、学力向上がみられることからA評価となった。

施策評価結果 (A5点、B4点、C3点、D2点、E1点とし数値化)

施策	評価数	A	B	C	D	E	合計点	平均	備考
		5	4	3	2	1			
1 生涯学習推進体制の整備・充実	3	1	2	0	0	0	13	4.33	
2 人格形成の基礎を培う幼児教育の充実	2	0	2	0	0	0	8	4.00	
3 生きる力をはぐくむ学校教育の推進	4	2	2	0	0	0	18	4.50	
4 多様なニーズに応える社会教育の充実	2	0	2	0	0	0	8	4.00	
5 健康づくりや仲間づくりを促進する生涯スポーツの推進	1	0	1	0	0	0	4	4.00	
6 次代につなぐ地域文化及び芸術活動の振興	2	0	2	0	0	0	8	4.00	
合計	14	3	11	0	0	0	59	4.21	



基本方針6 村民と共に、力強い自治をつくるむらづくり



「広域行政の推進」と「国・県との連携」においては、平均点が4点となり概ね計画どおり取り組みが実施できた。

一方、「行政の効率化」では、行政評価や事務事業の見直しに積極的に取り組めていないことからD評価となり評価が低い要因となった。

施策評価結果（A5点、B4点、C3点、D2点、E1点とし数値化）

施策	評価数	A	B	C	D	E	合計点	平均	備考
		5	4	3	2	1			
1 行政の効率化	4	0	0	3	1	0	11	2.75	
2 財政の健全化	2	0	1	1	0	0	7	3.50	
3 広域行政の推進	1	0	1	0	0	0	4	4.00	
4 国・県等との連携	1	0	1	0	0	0	4	4.00	
合計	8	0	3	4	1	0	26	3.25	



5 住民等アンケート調査結果

(1) 調査の概要

令和5年度から10年間(令和14年度まで)を計画期間とする「第6次宇検村総合振興計画」を策定するにあたり、本村の現状に関する意識や意向、村へのUターンの意識等を把握し、今後のむらづくりの方向性や村が取り組む施策等を検討する際の基礎資料とすることを目的に調査を実施しました。

① 村民調査

調査時期	令和3年12月
調査対象者	村内在住の16歳以上の方全員
調査方法	①郵送配布・郵送回収 ②郵送配布・インターネット回答
配布数	1,378件(うち宛先不明により返戻:4件)
有効回収数・有効回答率* ※宛先不明返戻分を除いて算出	合計 648件(47.2%) (内訳)郵送回収 578件(42.1%)、 インターネット回答 70件(5.1%)

② 出郷者調査

調査時期	令和3年12月
調査対象者	宇検村出郷者団体に登録している出郷者(東京、神奈川、千葉、茨城、栃木、埼玉、愛知、大阪、京都、奈良、兵庫、鹿児島)
調査方法	①郵送配布・郵送回収 ②郵送配布・インターネット回答
配布数	100件
有効回収数・有効回答率	合計 31件(31.0%) (内訳)郵送回収 29件(29.0%) インターネット回答 2件(2.0%)

③ 出郷者(18-23歳)調査

調査時期	令和3年12月
調査対象者	村広報紙送付登録のある出郷者のうち18~23歳の方
調査方法	①郵送配布・郵送回収 ②郵送配布・インターネット回答
配布数	50件(うち宛先不明により返戻:10件)
有効回収数・有効回答率* ※宛先不明返戻分を除いて算出	合計 11件(27.5%) (内訳)郵送回収 2件(5.0%) インターネット回答 9件(22.5%)

④ 中学生調査

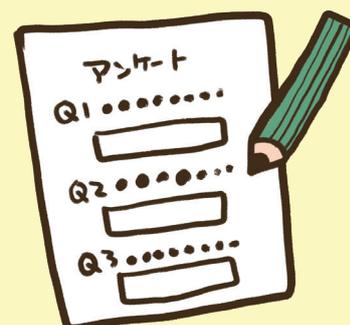
調査時期	令和3年12月
調査対象者	宇検村立中学校に在籍する中学生
調査方法	学校での直接配布・回収
配布数	33件
有効回収数・有効回答率	合計 33件(100%)

⑤ 事業者調査

調査時期	令和3年12月
調査対象者	宇検村内の企業・事業者
調査方法	郵送による配布・回収
配布数	35件
有効回収数・有効回答率	合計 19件(54.3%)

⑥ 団体調査

調査時期	令和3年12月
調査対象者	宇検村内のむらづくり団体や経済団体等
調査方法	郵送による配布・回収
配布数	7件
有効回収数・有効回答率	計 3件(42.9%)



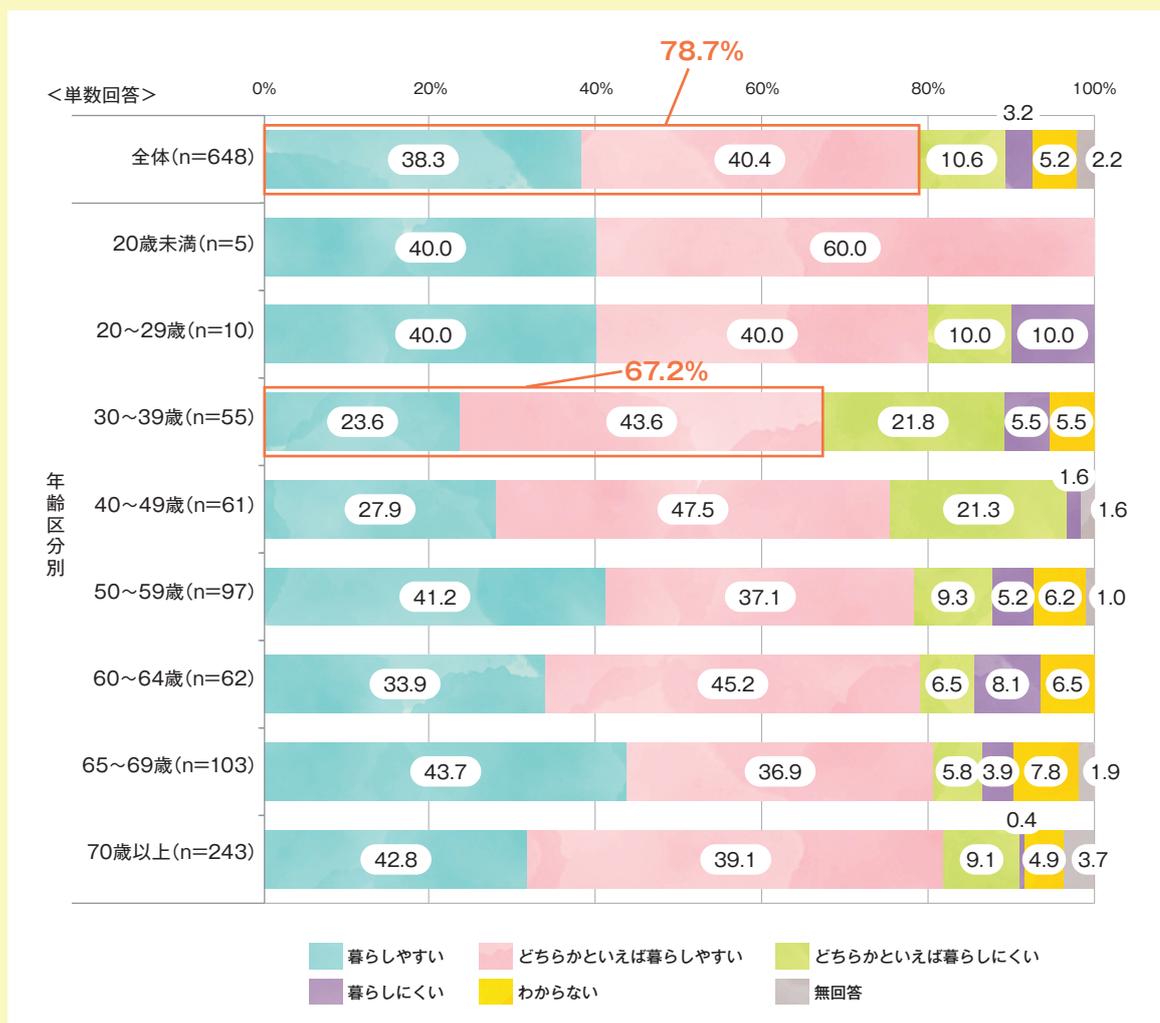
(2) 主な調査結果

① 宇検村での暮らしについて

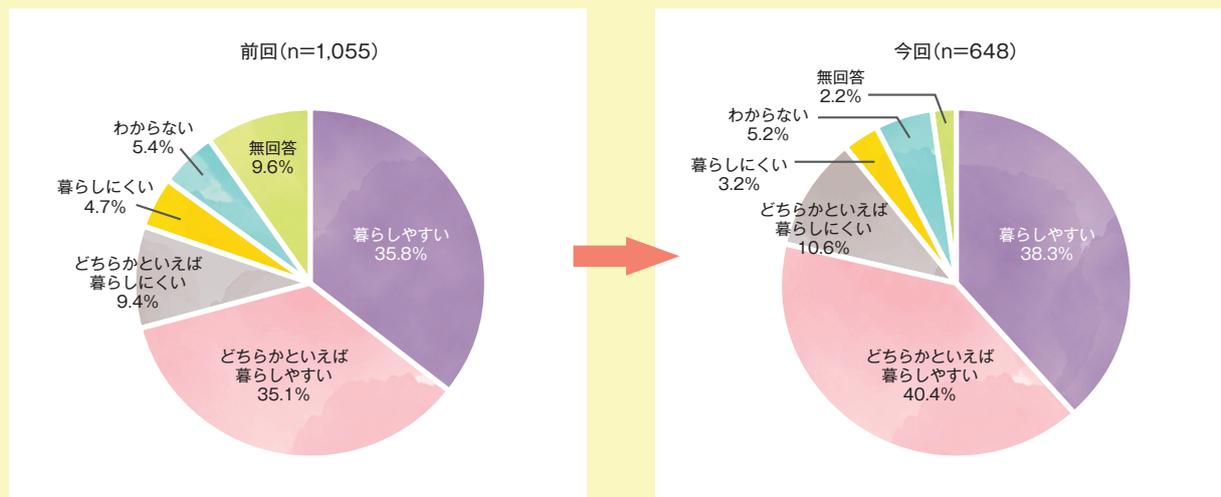
(ア) 現在の暮らし

- ◇ 村民調査では『暮らしやすい』（「暮らしやすい」と「どちらかといえば暮らしやすい」の合計）と回答した割合は78.7%となり、前回調査の70.9%より7.8ポイント高くなっています。
- ◇ 30歳代では『暮らしやすい』と回答した割合が67.2%となり他の年代に比べ低くなっています。
- ◇ 中学生調査では『住みやすい』（「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計）と回答した割合は63.6%となり、村民調査より15.1ポイント低くなっています。ただしこの要因の一つとして、中学生調査に「ふつう」という選択肢を設けたため『住みやすい』の回答が低くなったことも考えられることから、比較においては注意が必要です。
- ◇ 暮らしやすさの回答別の施策の満足していない割合をみると、『暮らしやすい』と回答した人では「商工業の振興」の満足度が最も低くなっているのに対し、『暮らしにくい』（「暮らしにくい」と「どちらかといえば暮らしにくい」）と回答した人では「社会基盤・交通の整備」の満足度が最も低くなっています。

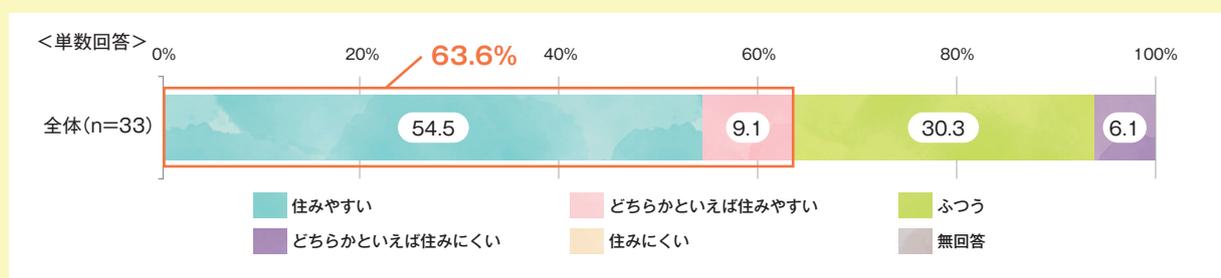
■ 宇検村は暮らしやすいか(村民)



■宇検村は暮らしやすいか(村民、前回調査比較)



■宇検村は住みやすいか(中学生)



(イ)今後の定住意向

- ◇中学生調査では、「どちらともいえない」の割合が45.5%と最も高くなり、「ずっと住み続けたい」の割合は12.1%、「高校、大学など卒業して戻ってきたい」の割合は15.2%となっています。
- ◇村民調査では「これからも住み続けたい」の割合が67.9%となり、前回調査の61.4%より6.5ポイント高くなっています。
- ◇30歳代では「これからも住み続けたい」の割合が38.2%となり、他の年代に比べ低くなっています。
- ◇久志校区では「これからも住み続けたい」と回答した割合が59.7%となり他の校区に比べ若干低くなっています。
- ◇村民の住み続けたいと思う理由については、「海、山、川があり、自然環境が豊かである」が圧倒的に多くなっています。前回調査と比較すると、上位5位の項目、順位に変わりはありませんでした。
- ◇一方、村民の住み続けたいと思わない理由については、「交通の便が悪い」「買物や外食がしにくいなど、日常生活を営む上でのサービスが充実していない」が6割を超えています。前回調査と比較すると、「働く場所が少ない」を理由に上げる回答は、前回より少なくなっています。
- ◇出郷者のUターンの意向については、「まあそう思う」が2割程度にとどまっています。
- ◇18~23歳の出郷者のUターン意向については、回答のあった11件中「いつかは戻りたいと考えている」が6件と最も高く、次いで「どちらともいえない」が3件、「戻るつもりはない」が2件となっています。

■宇検村に住み続けたいか(中学生)

